

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	4073400469
法人名	社会福祉法人 同朋会
事業所名	グループホーム 国分
所在地 (電話番号)	福岡県大宰府市大字国分字川原271-1 (電話) 092-918-8288
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成21年9月25日

【情報提供票より】(平成21年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 10日
ユニット数	2 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	18 人
常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="radio"/> 併設 <input type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	3 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円)	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成21年8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	10 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小西第一病院、岩崎外科医院、安元歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一敷地内に介護老人保健施設とケアハウスの建物があり、もう一つの建物の3・4階にホームがある。当ホームは、身体的に重介護が必要になった時や終末期には、医療機関への入院、法人内の老人保健施設や特別養護老人ホーム、または他施設への入所になることを利用契約時に、本人、家族と話し合っその方針を共有している。重度の認知症の方も受け入れ、しっかり利用者に寄り添って支援している。利用者の平均年齢が85歳で、最高年齢が94歳の方がおられるが、ホームは自立支援を視野に置いて、どの利用者にも自分の得意とすることや、やりたいことができるように支援している。特に、食事のかたづけでは、時にはすることの奪い合いになるほどで、洗う人、拭く人、食器戸棚に入れる人と役割を自然に分担して自らされている。利用者の表情も穏やかで、ゆったりとした自由な雰囲気の中で生活している。その利用者の暮らしを職員が一生懸命に、利用者との出会いに感謝し、喜びをもって支えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	前回の課題に対して、取り組まれている部分と残されている部分がある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	自己評価・外部評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を通して職員が1項目1項目問題意識を持つようになり、ホーム全体のことを考えるようになっていたりしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	運営推進会議は、区長、市行政(介護保険課と地域包括支援センター隔月)、利用者と家族(家族のみの月もつづけている)輪番制で1組、ホーム側の参加で2月に1回、開催している。ホームの行事の報告や家族の方の思い等を聴く中で、認知症の人への理解を深めてもらっている。また、参加者から地域の情報や地域資源の活用についての情報提供があり、意義ある会議になっている。次回から民生委員の参加依頼を考えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)	意見箱には、意見が入っていることはないが、年1回、開催している家族会では沢山の意見・要望等がでてくる。できること、できないことを明確にし、できることについては家族の意見を運営に反映させ、できないことについてはその理由を説明している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域とのつきあいでは、老人会への加入などの取り組みの余地はあるが、同一敷地内の母体の夏祭りに参加したり、保育園児や地域のボランティアを受け入れたり、散歩中挨拶をしたり、地域のイベントに参加したりして交流をしている。

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地理的側面、4階建てということから、地域との交流は容易ではないが、地域密着型サービスの意義を認識し、職員皆で事業所独自の理念をつくらせている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット玄関に理念を掲示し、全体会議、朝会引き継ぎ、トラブルが見えてきたとき等、ケアや運営の検討において常に理念を思い起こしており、共有ができています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつきあいでは、老人会にはまだ加入していないが、同一敷地内の母体の夏祭りに参加したり、保育園児やボランティアを受け入れたり、散歩中挨拶をしたり、地域のイベントに参加したりして交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価の意義を理解し、全職員で自己評価に取り組んでいる。自己評価を通して職員が1項目1項目問題意識を持つようになり、ホーム全体のことを考えるようになりつつある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、区長、市行政(介護保険課と地域包括支援センター隔月)、利用者と家族(家族のみの月もつくっている)輪番制で1組、ホーム側の参加で2月に1回、開催している。ホームの行事の報告や家族の方の思い等を聴く中で、認知症の人への理解を深めてもらっている。また、参加者から地域の情報や地域資源の活用についての情報提供があり、意義ある会議になっている。次回から民生委員の参加依頼を考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同一敷地内に老人保健施設、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所等があり、市に出向く必要性がなく、諸々のことが処理できているので、市と直接連携をとっていない。	○	グループホームを一つの地域密着型サービスとして、市の窓口でホームの実情やケアサービスの取り組みを折りに触れて伝えていくことが望まれ、工夫を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している	ホームには成年後見制度のポスターを貼っている。家族から質問があったこともある。また、1人それらを活用している。職員は、成年後見制度に関する外部研修に参加したことはある。また、ホーム内で成年後見制度の話をしたりするが、全職員が制度の内容までの理解はできていない。	○	成年後見制度について全職員が理解できるよう勉強会等が求められる。家族には、家族会開催やパンフレット等を通して情報の提供が望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料の支払いを毎月もって来てもらうことになっており、その時、日常の暮らしぶりや健康状態を報告している。訪問の多い家族には随時報告している。「国分たより」を季刊発行している。預かり金については、買い物レシートや領収書を家族に渡していないが、出納帳のコピーを渡している。レシートや領収書については求められればいつでも提示できるようにしている。職員の異動は、家族の訪問時に口頭で報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱には、意見が入っていることはないが、年1回、開催している家族会では沢山の意見・要望等がでている。できること、できないことを明確にしている。できることについては家族の意見を反映させ、できないことについてはその理由を説明している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は行っていないが、2ユニット間での異動は行っている。常日ごろからユニット間では行き来があり、利用者とも顔なじみになっているので、ダメージはない。離職の場合は、利用者負担をかけた過去の経験から挨拶をしない方針であり、利用者のダメージも見られない。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除していない。グループホームの特質から料理・運転・夜勤等がまんべんなくできる方を採用し、現在、20歳代から60歳代の男性・女性が勤務している。職員が希望する休みの調整等は、十分に配慮している。自己研修や資格取得挑戦等にも配慮されており、社会参加や自己実現の権利が保障されている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権をテーマに研修や勉強会をすることはないが、会議の中で、あるいは、日々のケアの中で必要と感じた時、その都度、その場で利用者の人権の尊重について話しをしている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時1か月研修、3か月研修をしている。母体の老人保健施設の研修参加、外部研修の情報提供、外部研修の参加等、研修の確保に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの見学を受けたことはあるが、グループホーム協議会に加入していない。管理者や職員が地域の同業者と交流し、お互いのサービスの質を向上させていく取り組みはない。	○	グループホームの連絡協議会など、サービスの質を向上させていく目的で結成されている会への積極的な参加が望まれる。他法人のホームとの交流や勉強会、連携の必要性を認識し、それを具体化するための方針や姿勢を示すことが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一敷地内にあるケアハウスや老人保健施設からの入居がほとんどであるが、入居に向けては、見学、1日体験あるいは半日体験等を通して、少しでも馴染んでもらって、納得して入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と一緒に洗濯たみや食事の準備などを行いながら、折に触れて利用者との会話・言葉から考え方や生き方を知り、またその時その時、出会いの感動を得て、職員自身人生を豊かなものにしてもらっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での行動、言葉、表情などから本人がどのように暮らしたいか、希望や意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は、家族や関係する人達から情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者1名～2名を各職員が担当して作成している。更にその計画を基に全職員で話し合っ気づいた事や本人、家族の意向や希望を反映した介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のない場合は、基本的に3か月毎に計画の見直しを行っている。見直し以前に状態変化が生じた場合は、家族や関係者間で話し合いを行い、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診の同行支援の帰りに回り道をして、かつて住んでいた自宅近くを通ったり、同じ敷地内のケアハウスの移動売店への買い物支援や友人を訪ねるなど、利用者のその時々希望や要望に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人が希望するかかりつけ医や協力医療機関へ受診している。協力医療機関には職員が受診介助しているが、かかりつけ医への同行は基本的に家族に依頼となっている。ただし、ペースメーカー使用者や家族が受診支援困難な場合は、職員がその時々状況に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、状況に応じて医療機関や法人内の老人保健施設や特別養護老人ホーム、または他施設への入院、入所になることを利用契約時に本人、家族と話し合っ方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報などの書類は事務所内に保管して慎重に取り扱っている。職員は一人ひとりの利用者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応はしていない。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間はそれぞれ異なって4時～8時頃で、就寝時間も遅い方はリビングでテレビを楽しむなどして21時～22時頃まで一人ひとりが、その人のペースで過ごしている。早朝や食後にベランダを自由に散歩したり、ソファでゆったり過ごしたり自由に過ごしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は利用者と一緒につくって、全職員ではないが、一緒に食している。利用者一人ひとりに献立例(写真など)を見せて希望や好みを聞きだし、昼食のメニューを決めている。職員、利用者が一緒に調理の下準備、盛り付け、下膳、食後の食器洗いなどを楽しく行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの午前中が入浴日とおおよそ決めているが、受診日前や毎日の入浴を希望する場合は希望に沿って入浴支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンや暖簾作り、ベランダの鉢花の水やり、食器洗いや盛り付けなど過去の生活歴や力を活かして、利用者が得意な分野の役割を楽しく行えるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候の良い時期は、ほぼ毎日数人でホーム周辺を散歩するのが日課となっている。田主丸町のぶどう狩りやコスモス、もみじ、桜など花見は季節毎に出かけている。食材購入にも希望者を募って一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは3階と4階に位置しているため、安全面への配慮から家族の了解を得てエレベーターは施錠し、開閉操作は職員が行っている。けれども、玄関の引き戸を自由に開けて、玄関先には出ることができ、また利用者すべての部屋からベランダへ自由に出て、いつでも外気に触れることができるので閉塞感はみられない。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員立ち会いのもとで6月に夜間想定避難訓練を同法人施設と合同で実施している。10月には2回目の避難訓練を実施予定である。職員は災害発生時の一時避難場所を熟知しており、避難訓練実施前には住民代表の区長を通じて協力を得られるよう働きかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝、夕食は法人施設管理栄養士の献立で調理している。昼食は利用者の好みや希望を採り入れ、栄養バランスを考慮しつつ献立をたてている。一人ひとりの一日の摂食量を記録し職員は把握している。水分摂取については、3度の食事と食事以外の時間に数回水分補給をしている。リビングにはいつでも自由に水分補給ができるようポットを置いている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広くゆったりとしたリビングの窓越しに高速道路を行きかう車が眺められ、ベランダには季節の花が咲き誇っている。不快な音や光もなく利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>お仏壇やテレビ、ソファ、カーペット、テーブルなど自宅で使い慣れた物や思い出の写真などが自由に持ち込まれ、一人ひとりの好みに合わせて居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>		